

校長室から

大町東小学校は雄大な北アルプスの蓮華岳、爺ヶ岳、鹿島槍を正面に仰ぎ、背後には稜線も穏やかな東山を背負う豊かな自然環境と、鎌倉時代以降 数百年にわたって栄えた由緒ある仁科の里に昭和56年（1981年）4月に誕生し、今年で開校38年を迎えます。5年計画で行われた耐震大規模改修工事後、校舎内もきれいに整備され、子どもたちは明るく広々とした校舎で、のびのびと学習や運動に取り組んでいます。

豊かな自然と人々の豊かな眼差しに支えられた本校は、「環境が人を育てる」を大事な教育の柱として位置づけ、校舎内外の整備に力を注いできたことがうかがえます。特に、玄関前の2本の見事な松の木は前身の旧社小学校から大切に移植されたものであり、校舎周りのドウダンツツジ、中庭の木々、校舎周辺の桜の木々、岩石園など、環境整備に力を入れてきた伝統を見ることができ、四季の変化も楽しめます。児童昇降口から正面に広がる明るい光の差す中庭には自然の水を引いた池や噴水、彫刻、それを囲むように藤棚や芽吹き、紅葉の時期も美しい木々が配置されています。池には鯉や金魚、カメものんびりと泳いでいます。学習環境を整備し、動植物を育て慈しむことにより、知らず知らずのうちに児童の心豊かな人格形成に寄与し、生きる力や美しさへの感動を育てています。

また、人的環境である教職員の資質向上に向けて、切磋琢磨する気風も大切にできています。教職員の和を大切に、互いを尊敬し合い、信頼し合い、気持ちをひとつにして子どもたちの笑顔と幸せのために精一杯取り組む職員集団でありたいと考えております。

今年度は、【学校経営の理念】『子どもと向き合い 関わる学校』とし、“子どもと向き合い同じ目の高さで同じものを見て関わる営みを日々積み重ねていく”ことを大切にして、「豊かな心の育成」「確かな学力の向上」「体力の向上」「支援教育の充実」を4つの柱に、どの子どもたちにとっても、安心・安全、そして、毎日笑顔で楽しく学校生活が過ごせるように、教職員の資質向上・指導力向上に取り組んでいます。

そのために、『いっしょに考え、学び合う』という言葉キーワードとして「支え合い、高め合い」「深く考え、表現する授業」を意識し、めざす子ども像を「学習や運動に意欲的に取り組む子ども」「一人で考える子ども、ともに考え学び合う子ども」とし、めざす学校像を

- ① すべての活動を通して子どもの自己有用感を高める学校
- ② 「子どもを真ん中において考える教育」を実践する学校

とし、職員一同、これらの実現に向けて研修をしながら取り組んでいきたいと考えています。

本校は、子ども一人一人を大切にする教育、地域の「人・もの・こと」に学ぶ活動を大事にされてきており、伝統となっています。特に、学校と保護者の皆様との連携による家庭教育力の向上に向けた取り組みとして「大町東小学校グレード・アッププラン」を策定し、取り組みを始めて8年が経過しました。保護者の皆様や教職員の学校評価からもその成果が現れてきていることがわかります。今年度も、この「大町東小学校グレード・アッププラン」を学校運営のひとつの柱として明確に位置づけております。そして、おりにふれて成果や課題を共に語り合い、子どもたちの健全な育成に取り組んで参りたいと思います。

「信州型コミュニティ・スクール」の指定を受け、2年目となる本年度、地域と共に歩む学校として、学校や児童の姿が地域にさらに見えるようにしていきたいと思っております。また、学校支援ボランティアの方々をはじめ、地域の皆様のご支援をいただくとともに、授業参観や学校行事、PTA活動などで、児童の発表の場を大切にし、学校だより、校長室だより、学級・学年通信を通して、保護者や地域に開かれた学校運営を引き続き行って参りたいと思っております。保護者の皆様、地域の皆様の学校によせる熱い期待をいただきながら、学校目標「きたえる 思いやる 求める」を柱にした本校の教育をさらに充実・発展させて参りたいと考えております。

平成30年4月

大町市立大町東小学校長 丸山 伸一